

この音声問題は、中学校第二学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、中学校二年国語「話すこと・聞くこと」にチャレンジしましょう。

今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問いに答えてください。問題用紙は開かないでください。表紙のあいているところにメモを取りながら聞きましょう。

熊本中学校二年生の田中さんは、職業講話で博物館の鈴木さんから聞いた「見方を変えることの大切さ」の話を興味をもち、もっというろろな話を聞きたいと思い、鈴木さんにインタビューをすることにしました。田中さんのインタビューの仕方に注意して聞きましょう。

田中 先日、私たちに講話をしていただきありがとうございました。私は、この時の「見方を変えることの大切さ」の話にとっても興味がわきました。もっとくわしく教えていただけませんか。

鈴木 わかりました。それでは今日は、「失敗が成功につながった例」ということで文房具の付箋のことをお話ししますね。田中さんも学校で普段使っているのではないですか。

田中 はい、よく使っています。はったりはがしたりできてとても便利ですが、これが、失敗からできたのですか。

鈴木 そうなんです。もともと、外国のある会社の社員が、「新しい接着剤」の開発に取り組んでいたそうです。開発していくなかで、「よく付くが簡単にはがれてしまう」という奇妙な接着剤ができました。簡単にはがれてしまうような接着剤は、普通、役に立ちません。接着剤としては、失敗作ですよ。しかし、この失敗が、失敗で終わらなかったのです。

失敗した接着剤を見た他の社員が、接着剤としては、不完全で失敗だけでも、つけたりはがしたりできるところは、おもしろい。このままやめてしまうのはもったいないから、何か他の使い道はないだろうかと考えたそうです。そこから「糊のついたしおり」を思いつき、試行錯誤のうえ、文房具の「付箋」として商品化したそうです。

田中 すごいですね。私は、一生懸命がんばったことがうまくいかなかったら、そこで、考えることをやめてしまうことが多いです。でも、この会社の方々は、失敗を失敗で終わらせず、別の利用方法を考えたのですね。本当にすごいと思いました。大人の方もそう思われますか。

鈴木 わたしもすごいことだと思います。田中さんも知っているとは思いますが、昔から「災い転じて福となす」という言葉があります。物事の結果というものは、見方や考え方によって大きく変わるものですね。

田中 私は、鈴木さんのお話を聞いて、見方を変えることの大切さをしっかりと学びました。このように、見方を変えて考え、失敗を失敗で終わらせるのではなく、成功へのカギとしてとらえることで、新たな発見ができるのですね。

田中さんのインタビューは、まだ続きますが、放送はこれで終わります。それでは、問題用紙を開いて始めてください。